

【四天王寺で、世界一の梵鐘が造られていた】

大阪の四天王寺では世界最大級の梵鐘が回収されていた。高さ 8メートル近い大梵鐘が鑄造されるも、わずかその 30 年後には解体された。

高さ 2丈6尺 (7.86メートル)

差し渡 (口径) 1丈6尺 (4.83メートル)

厚さ 2尺2寸 (66センチ)

廻り 5丈4尺 (16.35メートル)

目方 (重さ) 4万2000貫 (157.5トン) →予算の都合で1万7000貫 (64トン) に変更

頌徳鐘鑄造費 (当初予算) 26万円 (工場からの輸送費2万円込み、現在の価値では9億4000万円ほど)

鐘楼堂建設費 10万円 (現在の価値では3億6000万円ほど)

【被災寺院】

太平洋戦争における本土空襲は各地の寺院を破壊し、文化財を消滅させた。戦後直後に文部省と日本宗教連盟が実施した被災寺院は4609か寺 (寺院総数の5.9%)。

戦災寺社教会数

	総数	戦災数	戦災坪数
仏教寺院	7万8219	4609	63万6470
神社	11万479	1374	8万2440
キリスト教教会	1924	446	4万9189
教派神道	1万6521	2540	15万5892

出所『宗教便覧』 (1948)

註：東京都の戦災坪数は推定値

【仏像疎開】

1943 (昭和18) 年12月14日に閣議決定されたのが、次の「国宝、重要美術品ノ防空施設整備要綱」だった。空襲によって破壊されてしまう危険性が高い「防空特別地域」として京都市と奈良市が挙げられ、疎開の方針と措置について記されている。

1944 (昭和19) 年1月には、東大寺で「第一回国宝防空施設協議会」を開催。同時に県の技師らは帯解 (奈良市山町) にある尼寺、円照寺などを疎開先と決め、清掃作業などを実施した。

疎開先に指定された寺院はほかに、奈良市内から南東に20kmほど離れた大蔵寺 (大宇陀町=当時) や、奈良市北西部の正暦寺 (しょうりゃくじ・五ヶ谷村=当時) があった。文化財の疎開は盗難を避けるために内密に実施された。東大寺や興福寺では1944 (昭和19) 年3月下旬以降、荷造りがはじめられた。